

平成22年度水道事業評価 一覧表

政策番号	政策名称	政策内容	施策番号	施策名称	事業番号	事業名	主務課	事業の概要	予算額	決算額	達成状況	継続的な取り組み 今年度課題の解決策	総合評価		事業継続方針	
													評価	評価の根拠		判定
					3-2-3	私道内給水管布設替整備補助事業 (平成24年度まで)	給水管理課	お客様が保有する老朽化した給水管による出水不良及び漏水多発を解消し、給水の安定と配水管網の整備を図るため、私道内給水管のステンレス鋼管への布設替え工事に対し、その経費の一部を補助します。(対象:同口径及び増口径)	50,000千円	39,000千円	今年度は、要綱の一部を改正し、補助対象の枠に妥当性のあるものを追加した。 出水不良と漏水を解消する管網整備の促進を図るための私道補助は、24路線を布設替えし、お客様の要望に応えられたが、目標値である28路線には及ばなかった。	私道補助申請の形態が多少変わってきており、通常の一路線のほかに私道の広域化した区域の布設替えによる分割申請の相談が増加している。このような箇所が幾つにもなると補助金の不足や適正な予算執行に支障を来してしまう恐れがあり、一年度に受けられる件数の制限等の対策を検討しなければならない。	A	■目標到達度:ほぼ達成している。 ■次年度改善課題:課題はあるが重大な課題はない。 ①有収率向上という事業目的を踏まえ、申請予測の精度を上げる。 ②申請受付から補助決定までの期間短縮を図ることで、事業の効率性を向上させることに取り組む。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-2-3 私道内給水管布設替整備補助事業								
					3-2-4	私道内給水管布設替整備補助事業 (平成25年度から)	給水管理課	お客様が保有する老朽化した給水管による出水不良及び漏水を解消し、給水の安定と配水管網の整備を図るため、私道内給水管のステンレス鋼管への布設替え工事の経費に対し、その一部を補助します。(対象:増口径のみ。同口径は「老朽給水管布設替事業」で対応) (平成25年度から実施)	-	-						
					3-2-5	老朽給水管布設替事業	給水管理課	お客様が保有する私道内の老朽化した給水管を、同口径で更新する場合、水道本管から水道メーターまでのステンレス鋼管切替工事を行い、水道局の配水支管としていきます。	-	-	給水区域内に布設されたφ50mm以下のPP管の調査を行い、公道及び私道内の口径・延長距離・給水戸数を把握し、布設替工事費の算定及び埋設年度や漏水件数を基に順位付けした「補助管理設集計表」を作成した。これにより、「老朽管布設替計画」を策定し、私道内の給水管布設替基本方針を定めた。また、実施方法についての素案を作成した。	今後の事業の方向性として、従来掲げている私道内給水管の布設替えのほか、老朽給水管である公道部分に残存するφ50mmのPP管について、どのように組み入れるか、これにより、当事業の見直しを検討すると共に、施工にあたっての人員配置、発注方法等具体化していく。	C	■目標到達度:一部達成している。 ■次年度改善課題:課題はあるが重大な課題はない。 ①事業実現可能性向上のための、基本方針・布設替計画を策定したものの、実施方法が具現化していない。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-2-5 老朽給水管布設替事業								
			3-3	配水幹線ネットワークの強化	3-3-1	配水管網基幹ブロック化事業	施設課	現在全市域をネットワークしている配水管網(網目状になっている水道管路)を、拠点浄配水場を軸とした4つのエリアに基幹ブロック(大区画)化し、水質、水圧、流量など、日常の快適性を向上させます。また、震災時に断水範囲を最小限に食い止めるとともに、被害区域内を集中的に補修することで、早期に復旧が行える新たなネットワークに構築します。	93,030千円	57,593千円	・施工箇所の実施設計が完成し、これを用いて平成23年度の事業が進捗出来る状態。 ・配水幹線0.8kmの整備が完了し、安全に配水された状態。 ・掘削規制や施工困難性の調査および関係機関との調整・合意を、実施設計前に徹底して行い、変更のない計画執行できた状態。	・今年度目的達成を踏まえ、石神配水ブロック化の事業推進を図るため、約1.0kmの配水管布設を継続する。 ・H23年度工事発注分の設計委託業務は完了している。	A	■目標到達度:達成している。 ■次年度改善課題:課題はあるが重大な課題はない。 予算の効率的執行の努力が見られるものの、要求時の精査はさらに必要。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-3-1 配水管網基幹ブロック化事業								
					3-3-2	配水管網中規模ブロック化事業	施設課	基幹ブロック内を中規模ブロック(中区画)化し、流方向を定め、迅速な漏水対策と、よりきめ細やかな災害復旧性を整えます。 (平成28年度から実施)	-	-	(平成28年度から実施)	(平成28年度から実施)		(平成28年度から実施)		

平成22年度水道事業評価 一覧表

政策番号	政策名称	政策内容	施策番号	施策名称	事業番号	事業名	主務課	事業の概要	予算額	決算額	達成状況	継続的な取り組み 今年度課題の解決策	総合評価		事業継続方針
													評価	評価の根拠	
					3-3-3	マッピングシステム拡充事業	給水管理課	配水管網のネットワーク情報を、コンピュータ上で電子管理しているマッピングシステムをさらに拡充し、きめ細やかな水運用と顧客サービスの迅速化を図るとともに、マッピングシステムの情報が、GPSを活用し現場で取得できる「可搬型(モバイル)端末機」の整備を進め、平時の漏水や災害時の被害にも、現地で確実な復旧ができる体制を整備します。	40,820千円	33,007千円	①マッピングシステムのリプレースを行い、精度を強化できた。 ②モバイル端末機を導入し、運用開始した。 ③水理解析システムを導入し、運用開始した。	システム機能やデータ精度の向上、情報量の拡充等について引き続き改善に努める。 今年度導入したモバイル端末機及び水理解析システムについては、より効果的に活用できるよう現場の意見を取り入れながら、運用方法の改善に努め、操作研修をおこなっていく。	A	<p>■目標到達度: 達成している。</p> <p>■次年度改善課題: 課題がある。 マッピングシステムは安定的に運用できている。 モバイル・水理解析システムは、運用開始したものの効果は発揮できていない。</p> <p>●必達指示事項 ①管路情報は正確であるものの、地形データは変化していることから、地図情報の抜本的な見直しを検討する時期に達している。 ②水理解析システムの運用開始に伴い、他事業においても有効的に活用できるよう解析手順などを早急に整備する。 ③鳩ヶ谷市の合併を見据えてデータの整合性が取れるよう早急に準備する。</p>	継続(維持)
			3-4	低水圧地域の解消	3-4-1	直結給水普及事業	給水管理課	貯水槽の定期的な清掃や点検が不要になり、いつでも新鮮な水道水が配水管から給水管へ直接供給される「直結給水」の普及を行います。	0千円	0千円	直結増圧式給水方式施行基準(解説)(案)を作成、課内において内容を精査し、経営会議にて承認された。	当市において直結給水、直結増圧給水を行う場合は、配水管の水圧が地域によって異なっているため、専用住宅等の3階への給水や直結増圧給水の許可申請での公平性を保つことが出来ていない。これを解消するためには、全域的に水圧を上昇させ安定供給を図らなければならないが、現実には、他事業(漏水調査事業・給水管切替事業等)の推進に頼わざるを得ない状況下である。また、学校施設への給水設備の更新(直結給水導入)については、教育局や関係課と協議し、連携を図り進めていきます。	B	<p>■目標到達度: 一部達成している。</p> <p>■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 直結増圧式給水方式設計施工基準は整備され、知見の集積を行っている。</p> <p>●必達指示事項 ①マニュアルや解説書の整備をする。 ②直結給水の導入に関する広報活動を具体化すること。 ③学校施設への協議の場を設け、児童においしい水道水を配れるよう普及に努める。</p>	継続(維持)
					3-4-2	水圧向上事業	給水管理課	基幹ブロック化の進捗に合わせ、水圧のさらなる向上を図り、有効活用を普及していきます。 (平成26年度から実施)	-	-	(平成26年度から実施)	(平成26年度から実施)	(平成26年度から実施)		
					3-4-3	加圧ポンプ設置事業	施設課	地理的条件や宅地等の開発により、水圧の低下が心配される地域であって、配水管の布設替えやバルブ操作では低水圧の解消が困難な地域において、ブロック化完了までの暫定措置として、加圧ポンプを設置します。	77,910千円	36,834千円	①新郷地区にポンプ設置が完了し、低水圧が解消できた。 ②計画目標達成の仕組みづくりを含め、工事を施工する上で、浄水課と連携し、工事箇所の施工方法についての検討を行い、効率的な執行ができた ③掘削規制や施工困難性の調査および関係機関との調整・合意を、実施設計前に徹底して行い、変更のない計画執行ができた。	・次年度の予定については鳩ヶ谷市との合併を見据え、現計画の見直しを行い、適切な事業執行を行う。 ・今年度の工事完成を踏まえ、局内関係部署と連携し、低水圧区域解消の効果測定を実施する。	B	<p>■目標到達度: ほぼ達成している。</p> <p>■次年度改善課題: 課題がある。 ①浄水課と連携し、予定通り工事を完了した。 ②加圧ポンプを不要とするため、事業3-3-1「配水管基幹ブロック化事業」の進捗が急務である。</p>	継続(維持)
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-3-3 マッピングシステム拡充事業							
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-4-1 直結給水普及事業							
					リンク	水道事業評価シート	クリック	3-4-3 加圧ポンプ設置事業							

平成22年度水道事業評価 一覧表

政策番号	政策名称	政策内容	施策番号	施策名称	事業番号	事業名	主務課	事業の概要	予算額	決算額	達成状況	継続的な取り組み 今年度課題の解決策	総合評価		事業継続方針
													評価	評価の根拠	
			4-3	風水害対策の強化	4-3-1	風水害対策強化事業	水道総務課	他市の事例や都市環境の変化を踏まえ、水道局災害(非常)時マニュアルを常に更新し、全体・部分の訓練を様々な状況を想定して定期的実施するとともに、宇都宮市・前橋市・水戸市との水道災害四市応援協定や、日本水道協会との連携により、浸水想定に対する水道施設の保全対策に万全を期します。	0千円	0千円	1 気象予報には継続して注視した。 2 台風発生時期における監視を継続した。 3 水源地の情報収集も継続して実施。 4 市の災害10部に合わせて、水道局内の災害時体制の連携を図った。 5 浸水に対する保全対策をホームページ及び広報誌に掲載した。	浸水に対する保全体制として広報する機会をとらえて対策を強化する。以下の事項を実施していく。 1 気象予報には継続して注視。 2 台風発生時期の監視を実施。 3 水源地の情報収集し、ホームページで随時公表する。 4 市の災害10部に合わせて、水道局内の災害時体制の連携を図る。 5 浸水に対する保全対策をホームページ及び広報誌に掲載。	B	■目標到達度:一部達成している。 ■次年度改善課題:課題はあるが重大な課題はない。 ①事業4-1-1「地震対策強化事業」と連動し実施している。 ②集合住宅地下ポンプ室浸水に伴う給水障害について、水道局としての対策を周知している。	継続(維持)
			4-4	渇水対策の強化	4-4-1	渇水対策強化事業	水道総務課	近年の異常気象による水不足に対応するため、中期的な気象情報や水需要の動向を分析するとともに、自己水源の機能保全や、異常渇水時における市民との連携体制の構築につとめ、渇水時の水道水供給対策に万全を期します。	0千円	0千円	①水源情報、水源地積雪状況及び気象庁長期予報に基づく渇水予測を実施 ②事業1-2-1「自己水源整備事業」の情報に基づく渇水期地下水取水可能量を把握し、渇水発生時に、必要な水量を届け続けられるよう、組織内の意識啓発を実施。	①水源情報、水源地積雪状況及び気象庁長期予報に基づく渇水予測を実施 ②事業1-2-1「自己水源整備事業」の情報に基づく渇水期地下水取水可能量を把握し、渇水発生時に、必要な水量を届け続けられるよう、組織内の意識啓発を実施。 ③渇水発生判断に基づく給水計画を関係各課と協議し策定する。	B	■目標到達度:一部達成している。 ■次年度改善課題:課題がある。 ①水道総務課と浄水課との連携により、水源地のモニタリングを常時行うとともに、5月下旬から経営会議での報告事項とし、局全体の情報共有とした。 ②渇水時への給水計画を策定できず、移行体制の整備ができなかった。	継続(維持)
			4-5	施設非常時(テロ)対策の強化	4-5-1	施設安全管理対策事業	浄水課	水質異常監視の強化を行うとともに、浄配水場施設の警備システムの機能の点検と、職員による定期巡回を行い、確実な施設安全管理体制を維持します。	15,043千円	14,406千円	引き続き、施設の安全を維持することが、市民の安全を維持することに直結するという意識のもと、すべての職員が当事者意識を持って、 ①定期的及び臨時的な巡回・点検を実施した。 ②現状の課題の抽出と改善策として、特に浄配水場外構フェンス更新に向けて検討し、無人化施設への侵入防止を強化する方策として、フェンスの嵩上げを一部実施した。 ③安全管理の面から管理体制を見直し、防犯カメラやセンサー等の設備面での総合的な検討を行った。	施設の安全を維持することが、市民の安全を維持することに直結するという意識のもと、全職員が当事者意識を持って、施設の安全確保に努める。 不審者の侵入を防ぐ外溝フェンスの見直しの検討も課題として残っており、実施に向けた精査を推進する。また、防犯カメラやセンサー設置など設備面の検討も引き続き行い、早期設置を試みる。	A	■目標到達度:達成している。 ■次年度改善課題:課題はあるが重大な課題はない。 定期的及びセンサー感知時の巡回・点検を行い、事故の未然防止に努めるとともに、侵入者を迅速に排除し、施設内事故を防いでいる。	継続(維持)
5	環境との調和	良好な自然環境を未来に手渡せるよう、私たちの施設を、限りある資源を効率的に利用する省エネルギー・CO2削減プラントに更新します。	5-1	環境負荷低減対策の推進	5-1-1	浄配水施設環境対策事業	浄水課	3-1-1「浄配水場施設更新事業」とリンクさせ、老朽化した設備を、高効率・高機能・環境配慮型プラントに抜本更新するとともに、3-3-1「配水網基幹ブロック化事業」、3-3-2「中規模ブロック化事業」の進捗状況と、水道使用量の減少に伴う設備稼働率の低下状況を踏まえ、自然流下(高いところから低いところへ流れる力)を最大限活用した配水制御を前提とした電気機械設備等の見直しを進め、平成29年度までに上青木、神根・新郷・横曽根の4浄水場に石神配水場を加えた5浄配水場を中心とした、省電力型設備への更新を実施します。	140,994千円	100,800千円	①職員全員が環境負荷低減を念頭に置き、高効率機器の選定知識や省エネルギー技術の研究に関する知見を活用し、事業計画の成果向上に反映された状態で、 ・芝園配水場受配電計装設備更新工事を完成 ・新郷浄水場空調機取替工事を完成 ・石神配水場受配電設備実施設計委託を実施した。	次年度以降、石神配水場受配電計装設備更新工事等、今後の工事に向けて環境配慮の面で有効である。芝園配水場高効率、高機能で環境配慮型設備を設置を皮切りに石神配水場等の受配電計装設備関連の更新時にはなお一層の環境への配慮を目指す。	B	■目標到達度:ほぼ達成している。 ■次年度改善課題:重大な課題がある。 仕様の詳細な検討を重ねることにより、当初予定した性能を確保し執行した。	継続(維持)

平成22年度水道事業評価 一覧表

政策番号	政策名称	政策内容	施策番号	施策名称	事業番号	事業名	主務課	事業の概要	予算額	決算額	達成状況	継続的な取り組み 今年度課題の解決策	総合評価		事業継続方針	
													評価	評価の根拠		判定
					7-1-6	収納率向上事業	営業管理室	受益に対するご負担を等しくお支払いいただくため、水道事業の原資である水道料金の滞納解消を、6-2-1「水道局お客様センター機能拡充事業」との包括外部委託により進めます。	0千円	0千円	①平成22年度収納率を90%を達成した。 (平成22年4月1日から平成23年3月15日までにお客様にご請求した水道料金に対する、平成23年3月末までにお納めいただいた水道料金の割合) ②平成22年度過年度未収金収納率83%を達成した。 (平成22年4月1日以前にお客様にご請求した未収の水道料金に対する、平成23年3月末までにお納めいただいた水道料金の割合)	今年度について、現年度収納率は目標値を達成した。また、過年度未収金がかかり減少してきており、次年度以降も過年度収納率が目標値を達成されることから、徐々に現年度、特に無断転出による未納に重点シフトしながら、回収に努め、現年度収納率目標値達成を目指してゆく。	A	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 ①現年度収納率90%は目標どおりの水準である。 ②過年度収納率83%は目標に達した。 ③次年度からさらに高い過年度収納率を設定している。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	7-1-6 収納率向上事業								
			7-2	水需要の動向把握	7-2-1	水需要動向調査事業	水道総務課	ライフスタイルの多様化や節水型機器の普及など、水需要予測は低下傾向にあることから、アクアプランの達成精度を高めるため、経営資本をどのように効率的かつ効果的に投入していくかといった今後の方向性を調査するものです。この中・長期的視点による分析結果をもとに、アクアプランの年次点検・評価の精度を向上させ、実態に即した計画の修正と成果の達成を図ります。 (平成25年度実施)	-	-	(平成25年度実施)	(平成25年度実施)	(平成25年度実施)			
			7-3	電子化の推進	7-3-1	庁内LAN運用事業	水道総務課	お客様からのご意見、業務に関する情報、技術的知見などを、コンピューターネットワーク上で一元化的に蓄積・整理し活用する「ナレッジ・データベース機能」を付加するなど、現在の庁内LANシステムを再構築し、より高度な情報共有システムに更新します。	17,551千円	17,505千円	情報漏えい事故0件を達成できた。 本年度に浮上した懸案事項(OS・ウイルス対策ソフトの更新)は解決した。	①引き続き情報セキュリティに関する情報を収集し、新たな脅威の出現によりシステムが危険にさらされる場合は適切な対応を取ることで、情報漏えい事故0件を維持する。 ②ナレッジマネジメントについて、蓄積情報量が増え有効に機能している一方、整理すべき情報も存在する。今後はサーバに記録している「情報の質」についても見直すとともに、ポータルサイトのファイルサーバとの連携も含めた有効活用を図る。 ③平成24年度に局内のパソコン、プリンタの長期賃貸借契約が終了することから、平成23年度内において契約終了後の方針を決定し、予算等、計画を策定する。	A	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 ①ウイルス対策ソフトの更新など安全性の向上を達成した。 ②ファイルサーバがナレッジ・マネジメント機能を有しており、情報量が増加し、有効に機能している。 ③ポータルサイトでも引き続き各種情報を提供し、可視化情報が共有されている。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	7-3-1 庁内LAN運用事業								
					7-3-2	電子入札事業	財務課	入札の透明性の向上とともに、入札参加機会の拡大、入札参加者の費用負担や事務負担の低減を図るため、電子入札事業をさらに推進します。	572千円	495千円	①電子入札に適した工事件は、全て電子化により実施することができました。 ②設計図書電子化を行うことが可能な案件(1案件3MB/A4:100枚程度)以内かつ県全体で12GB以内)について、全て電子化が行えました。	対応が可能な案件の電子入札の実施、及び設計図書の電子化による送付について、それぞれ100%実施を達成できました。今後は、それぞれを継続し進めます。	A	■目標到達度: 達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 ①拡大策として予定していました参加意識確認型指名競争入札の電子入札を全てに適用し実施できた。 ②電子入札を行うことが効果的と判断する入札について、全ての案件で電子入札が効果的と判断し、これを100%実施した。	継続 (維持)	
					リンク	水道事業評価シート	クリック	7-3-2 電子入札事業								
			7-4	流域自治体とのネットワークの構築	7-4-1	利根川・荒川水系水道事業者連携事業	水道総務課	流域水道事業者とのネットワークを構築し、水質の保全、水質事故への緊急対応、技術水準の向上を進めます。	20千円	20千円	①水質保全を主とした関係水道事業者相互間の連絡を密にし、会議への出席等により、関係機関との情報の共有に努めました。 ②局内の水質事故即応体制の点検を行いました。	引き続き、利根川・荒川水系水道事業者連絡協議会に加盟している水道事業者相互間の連携を図り、水質の保全等の情報交換を行い、局内においては、浄水課と連携を密にして、水道事故対応手順に則り、運用できる体制を維持する。	A	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 利根川・荒川水系水道事業者連絡協議会及び加盟している水道事業者相互間の連携により、情報を共有している。また、協議会を通じた活動により、水道水源の水質保全に貢献している。	継続 (維持)	

平成22年度水道事業評価 一覧表

政策番号	政策名称	政策内容	施策番号	施策名称	事業番号	事業名	主務課	事業の概要	予算額	決算額	達成状況	継続的な取り組み 今年度課題の解決策	総合評価		事業継続方針
													評価	評価の根拠	
8	組織能力の向上	市民に信頼される企業であり続けられるよう、職員が自由に発想し対話できる環境を整え、深く考え、挑戦し学び続ける組織を創ります。	8-1	人材の育成	8-1-1	職員研修事業	水道総務課	水道技術の向上と、内部に保有する技術や知識の継承のため、資格取得を奨励するとともに、外部研修への参加機会を増加させます。また、技術や知識をさらに深めるため、資格取得者や高度な技術・知識を保有する職員を内部講師として育成し、職員が互いに学びあう環境を創ります。このような研修の充実により、水道局全体の能力を高め、お客様の信頼に応える人材を育成していきます。	1,260千円	532千円	・研修体系のパイロットモデルを継続的に実施し、昨年度よりも計画に対する受講率を向上させた。 ・研修受講者を講師とする内部研修を行い、研修効果を高めるよう努めた。	・研修計画に位置付けられた研修については、確実に受講するため督促する風潮は根付いてきているので、更に定着させていく。 ・研修受講者を講師とする内部研修について、研修の指定・実施・報告までをマニュアルとして可視化し、スムーズな実施に努める。 ・日常業務や水道事故に関する検証の際などに、技術や知識の伝承が併せて行われるような体制づくりについて可視化に努める。	B	■目標到達度: 部分達成している。 ■次年度改善課題: 課題がある。 ①研修計画に位置づけられた研修については研修受講率が向上したものの実施率は50%にとどまった。 ②内部研修は実施された箇所もあるが、効果を検証していない。	継続 (拡大)
			8-2	職員交流の場の設置	8-2-1	部内研究促進事業	水道総務課	水道技術の向上と、内部に保有する技術や知識の継承を図るとともに、会議技法を習得し、コミュニケーション能力を向上させるため、職員の提案による部内研究会の発足を奨励します。これにより、職員が自由に発想し対話できる環境を整え、深く考え、挑戦し学び続ける組織風土を創ります。	234千円	1千円	①水道局が抱える課題の解決を行う「部内研究プロジェクトチーム」を4チーム編成し、顧客視点に立った部内横断研究を促進した。 ②プロジェクトチームに限らない、「安全・安心な水道水PR委員会」などの部内横断組織の設置及び活動を支援し、企業ビジョンの達成に協働する組織風土を醸成の端緒となった。 ③水道局ホームページアンケートの分析及び経営への融合を目的としたプロジェクトチームは設置せず、水道総務課でアンケートの活用を検討し	①水道局が抱える課題の解決を行う「部内研究プロジェクトチーム」のチーム編成し、顧客視点に立った部内横断研究を促進する。 ②プロジェクトチームに限らない部内横断組織の設置及び活動を支援し、企業ビジョンの達成に協働する自由闊達な組織風土を醸成する。	A	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 ①「部内研究プロジェクトチーム」を4チーム編成し、多角的な視点により課題解決の提言を導き出した。 ②部内研究プロジェクトチームとは別に、「給水部班長会議」「安全安心な水道水PR委員会」が設置され、部門横断的に議論・研究を促進する土壌が醸成されつつある。	継続 (拡大)
			8-3	適材適所の人材配置	8-3-1	職員適正配置事業	水道総務課	窓口業務等の事務事業の見直しを行い、人的資本を有効に機能させるとともに、事業8-1-1「職員研修事業」、事業8-2-1「部内研究促進事業」とリンクさせ、水道局全体の価値提供水準を向上させます。	0千円	0千円	人的資本を有効に機能させる局内体制、特に、川口市地域水道ビジョン～アクアプラン川口21～の第2期中期経営計画に掲げる計画を達成できる職員配置体制づくりに向けた検討を行った。	・引き続き、水道局が一丸となってアクアプランに掲げる目標を達成できるよう、職員研修事業と連携し、各職員の資質・特性に配慮しながら職員配置に努める。 ・一部の職員に事務分担が集中しない組織づくりについて研究する。 ・鳩ヶ谷市との合併を想定し、円滑な合併、事務事業の統合を図るための組織作りを努める。	B	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 前年度までの外部委託化の実現による、分析には至らなかった。	継続 (維持)
9	社会との調和	社会からの信頼を永続的にいただけるよう、守るべき情報を確実に守り、伝えるべき情報を正確に、積極的に、わかりやすく提供するとともに、地域の一員として社会貢献活動に積極的に取り組みます。	9-1	個人情報保護の徹底	9-1-1	情報セキュリティ事業	水道総務課	顧客情報など、機密を要する情報の漏えいを防止します。	0千円	0千円	川口市個人情報保護条例、川口市情報セキュリティポリシーの厳格に適用し、個人情報の適切な生成、収集、利用及び提供が行われ、情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏えいなどがいない状態を維持した。(個人情報事故0件)	「個人情報事故0件」を達成するよう、事業を行う。 人的なセキュリティ面について、意識の向上のため、効果的に職員研修等を実行していく。	A	■目標到達度: 達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 事業情報は、公開を原則とし、事業計画、財務状況など、年次報告書等による開示を積極的に実施することで、説明責任を果たしている。併せて、事業評価も公開し、実行責任の達成状況を公表している。	継続 (維持)
			9-2	情報共有の促進	9-2-1	情報共有事業	水道総務課	川口市情報公開条例の厳格運用を継続するとともに、事業6-1-1「ホームページ拡張事業」とリンクさせ、伝えるべき情報を正確に、積極的に、わかりやすくお伝えします。	1,204千円	988千円	①ホームページ拡張事業と相互補完し、年次報告書(アニュアルレポート)を7月に公表。 ②水道事故等の情報をホームページへ掲載し、また、町会等に連絡、現地広報車巡回周知により、迅速かつ正確に提供した。 ③提供情報に対するお客様の声を、ホームページ拡張事業におけるアンケートサイトから収集し、検証する仕組みを確立した。	①年次報告書や財務状況、水道事業評価結果など経営情報をホームページで公表。 ②水道事故等が発生した場合、迅速かつ正確に情報提供を行う。 ③他事業と合わせて、水源、水質、貯水槽水道設置者への情報など、顧客視点で提供を図る。	A	■目標到達度: ほぼ達成している。 ■次年度改善課題: 課題はあるが重大な課題はない。 ①ホームページ拡張事業と相互補完し、年次報告書により、経営理念、経営計画、財務状況、事業データを公表した。 ②水道事故等については、ホームページに掲載し、現地広報車を巡回させ、迅速かつ正確な情報を提供した。 ③ホームページのアンケートサイトを継続して開設した。	継続 (維持)

